

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	御用水再生事業	会計	一般会計	事業No.	593	施策順No.	46-010	
		事業種別	政策・その他	予算科目	8-4-3-12-3			
政策	4 暮らしと生命を守る安全安心で快適なまちづくり			課等名	土木課			
施策	46 活気ある街づくりの推進			事業期間	開始	13	終了	22

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	市民、来街者						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない	
	誰、何に	市民数:人	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度		
	意図	導入水路(側溝)の漏水を無くし、リンゴ並木に置ける水深(水量)を確保し、市民や訪れた人々に美しいと感じてもらう。							
	対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績		23年度目標
		りんご並木において5cm以上の水深を確保できた日数:日	100	130	150	150	150	150	A
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】		計画していた整備箇所について施工し、完了した。							

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	リンゴ並木の整備に伴い親水水路(御用水)を整備したが、安定した水量が確保出来ない為、上流部の水路整備により安定した水量の確保を図る。 整備計画区間 L=470m		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	水路整備(元町・本町)	施工延長	L=5m
23年度実施計画			

3 事業コスト

事業費	特定財源	(千円)	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項
	国庫支出金					
	県支出金					
	起債					
	その他					
	一般財源		861	861		
	計 (A)		861	861	0	
	正規職員所要時間			50		
	臨時職員等所要時間					
	人件費計 (B)			179		
	トータルコスト A+B			1,040		

4 事業に対する市民や議会の意見

地元自治会及び市民から水量の安定確保を強く望まれている。

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	中心市街地に人や物が集まり活気がある状態を目指す	施策の成果指標又はムトス指標	まちなかの6スポットの1日あたりの延べ歩行者数(本町1、銀座3、りんご並木、知久町1、駅前、中央通り4)
この事務事業は施策の目的達成にどのような貢献しましたか	4年間の振り返り	りんご並木に流れる水路に導水することにより、訪れた人への安らぎや潤いを与えるよう取り組んだ。より多くの集客により、中心市街地の再生・活性化に結びつく		
	後期に向けた課題	今後も水量確保に必要な管理を実施する必要がある。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	御用水の上流部における水路整備により一定の水量確保が可能となった。		
	後期に向けた課題	御用水の上流部における保全管理を地域住民と一体となって取り組むことにより、さらに成果を向上させることができる。		
コストを削減するためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	既存の側溝を水路と検討し活用することでコストを削減できた。		
	後期に向けた課題	今後も水量確保に必要な保全管理を地域と一体となって実施することによりコスト削減が見込まれる。		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	市が管理する水路であり、市が整備する。		
	後期に向けた課題	りんご並木への導水は受益者が特定されるものではないので、引き続き市が管理する。		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を発揮するために、行政はどのような働きかけをしましたか、又は、配慮しましたか	4年間の振り返り	御用水はその歴史的背景やりんご並木取水など飯田市の重要な用水であることから、現在飯田市で管理しているが、今後は関係するまちづくり委員会などで組織した管理組合が主体となって水量確保や保全管理の役割を発揮することが重要になってくる。そのため、行政は御用水の重要性を広く市民に周知し、今後の保全管理を地域全体で行うことが出来るよう働きかける。平成22年度には羽場地区御用水愛護会が発足したため、飯田市と協調して役割を発揮できるよう取り組む。		
	後期に向けた課題	地域の住民などで組織する御用水愛護会の活動がより効果が上がり、御用水の保全管理が進むよう飯田市と協調して取り組む		
全体を通じて	4年間の振り返り	元町、白山町を中心に既存水路の改修を実施したことにより、一定の水路確保が図られた。		
	後期に向けた課題	りんご並木への水量はまだ十分とはいえず、水質にも問題があるため、引き続き水量確保に取り組む必要がある。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要があるかどうか	ない	対象や意図を修正する必要がありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要がありますか	ない
-----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input checked="" type="checkbox"/> 休止廃止	<input type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	--	-------------------------------	--------------------------------	-----------------------------------